

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。

[戻る](#)

タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-06 環境問題を 考える	20130587017701	●環境問題を 考えるII(環 境と民俗)	和	E	増田 研	1年,2年,3年,4年	後期	金 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-06 環境問題を 考える	20130587018101	●環境問題を 考えるII(環 境と社会運 動)	和	E	戸田 清	1年,2年,3年,4年	前期	金 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-06 環境問題を 考える	20130587018501	●環境問題を 考えるII(環 境問題の歴史 から学ぶ)	和	E	菅原 潤	1年,2年,3年,4年	後期	金 4	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-06 環境問題を 考える	20130587018901	●環境問題を 考えるII(地 域の環境を考 える)	和	E	中村 修	1年,2年,3年,4年	前期	木 3	～
2013年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教育-教 養教育全学 モジュール II科目-06 環境問題を 考える	20130587019301	●環境問題を 考えるII(海 洋生物の遺伝 子多様性)	和	E	和田 実	1年,2年,3年,4年	前期	木 4	～

[戻る](#)

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-06 環境問題を考える**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587017701	科目番号	05870177
授業科目名	●環境問題を考えるII(環境と民俗)		
編集担当教員	増田 研		
授業担当教員名(科目責任者)	増田 研		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	増田 研		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	ken-m@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境440(文教キャンパス)		
担当教員TEL	2734		
担当教員オフィスアワー	水曜14:00-15:00		
授業のねらい	この講義では日本における人々の生活環境が自然とのあいだに切り結んできた関係を、生活空間の構造という観点から考える。		
授業方法(学習指導法)	講義およびワークショップ(ただし受講人数による)からなる。		
授業到達目標	自然環境と、それに対する文化的反応としての民俗的想像力を、講義で学習した概念によって説明できる。		
授業内容	回	内容	
	1	民俗とはなにか。	
	2	近代的/前近代的空間想像力	
	3	焼畑農業と雑穀栽培(1)	
	4	焼畑農業と雑穀栽培(2)	
	5	コメ栽培文化	
	6	漁撈文化	
	7	職能者集団(1)	
	8	職能者集団(2)	
	9	死の風景	
	10	霊を飛ばし、神を迎える(1)	
	11	霊を飛ばし、神を迎える(2)	
	12	長崎と周辺地域の精神世界と空間配置(1)	
	13	長崎と周辺地域の精神世界と空間配置(2)	

	14	長崎と周辺地域の精神世界と空間配置(3)
	15	まとめ
	16	試験
キーワード	環境、民俗、生業、神霊、儀礼、空間	
教科書・教材・参考書	指定しない。	
成績評価の方法・基準等	レスポンスペーパーなどの平常点（45％）、試験（55％）	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-06 環境問題を考える**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587018101	科目番号	05870181
授業科目名	●環境問題を考えるII(環境と社会運動)		
編集担当教員	戸田 清		
授業担当教員名(科目責任者)	戸田 清		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	戸田 清,保坂 稔		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生(クラス等)	教育、経済、薬学、水産 2年、3年、4年		
担当教員Eメールアドレス	toda@nagasaki-u.ac.jp hosaka@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部4階環404戸田教員室、同環427保坂教員室		
担当教員TEL	戸田095-819-2726、保坂095-819-2728		
担当教員オフィスアワー	戸田月曜16-17時 保坂木曜9時30分-10時30分		
授業のねらい	公害・環境問題を環境社会学の観点から考察する。		
授業方法(学習指導法)	教科書、プリント、映像などを用いて授業を行なう。積極的な質問や発言を期待したい。		
授業到達目標	公害・環境問題を環境社会学の観点から説明できる。環境問題における企業、行政、専門家、市民の役割を説明できるようになることも目指す。		
授業内容	前半の7回(保坂)は環境問題の分析について環境社会学的な見方を深める。後半の7回(戸田)は具体的な事例を通じて環境社会学を学ぶ。15回目はまとめ、16回目は定期試験です。		
	回	内容	
	1	社会運動分析 環境社会学への誘い	
	2	社会運動論 緑の党	
	3	エコファシズム	
	4	公共圏	
	5	リスク社会論	
	6	社会的ジレンマ論	
	7	計量的な社会意識研究	
	8	水俣病 公害・環境問題の原点 なぜ半世紀も混乱が続くのか	
	9	水俣病その2	
	10	カネミ油症 40年かかってわずかな前進	
	11	じん肺と石綿 職業病から公害病へ	
12	原発事故と原発被曝労働		

	13	戦争と環境破壊 ベトナム枯葉剤と劣化ウラン弾
	14	遺伝子組み換え作物とグローバル経済
	15	まとめ
	16	定期試験
キーワード	水俣病、カネミ油症、原発事故、受益圏と受苦圏、公共圏、リスク社会、社会的ジレンマ、オルタナティブ運動	
教科書・教材・参考書	教科書は戸田清『環境正義と平和』法律文化社、2009年。参考書は適宜紹介する。プリント配布、映像資料の視聴を適宜行なう。	
成績評価の方法・基準等	定期試験（80％）、レポート（20％）	
受講要件（履修条件）	受講要件は特にない。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標	環境社会学の考え方を学ぶ。	
備考（URL）	<a href="http://todakiyosi.web.fc2.com/">http://todakiyosi.web.fc2.com/</a>	
備考（準備学習等）	教科書を通読する。	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-06 環境問題を考える**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587018501	科目番号	05870185
授業科目名	●環境問題を考えるII(環境問題の歴史から学ぶ)		
編集担当教員	菅原 潤		
授業担当教員名(科目責任者)	菅原 潤		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	菅原 潤, 正本 忍, 宮西 隆幸		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	suga@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	菅原潤		
担当教員TEL	095-819-2730		
担当教員オフィスアワー	火曜日14:30~16:00		
授業のねらい	一般に環境問題は80年代以降世界的に知られるようになったと言われているが、それ以前にも大規模な自然破壊や、これにともなう生体の健康に与える深刻な影響が報告されている。この講義ではそれらの事例を踏まえながら、ローカルな視点で環境保護を訴える立場を模索することとする。		
授業方法(学習指導法)	講義形式でおこなう。		
授業到達目標	80年代以前の環境問題の歴史について説明できる能力を身につける。		
授業内容	回	内容	
	1	イントロダクション(80年代以前の環境問題の歴史)	
	2	イースター島の教訓	
	3	人間の領域の拡大-人と森のヨーロッパ史-	
	4	ヨーロッパの拡大と環境破壊	
	5	工業化の進展と環境破壊	
	6	生体に与える環境因子について	
	7	大気と温度と水の問題	
	8	無機イオンと内分泌攪乱物質について	
	9	環境的因子における生物学的インパクト	
	10	生体に与える環境因子の具体例	
	11	自然的環境と人間的環境	
	12	水俣病から見た公害問題	

	13	公害問題から地域環境問題へ
	14	風景の倫理学
	15	環境と公共圏
	16	まとめ
キーワード	環境破壊、環境響因子、風景	
教科書・教材・参考書		
成績評価の方法・基準等	各講義ごとのレポートによる評価	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ	地球環境問題探究のための基礎知識の習得	
学習・教育目標	環境問題の素養を身につける。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-06 環境問題を考える**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587018901	科目番号	05870189
授業科目名	●環境問題を考えるII(地域の環境を考える)		
編集担当教員	中村 修		
授業担当教員名(科目責任者)	中村 修		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中村 修, 深見 聡		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生(クラス等)			
担当教員Eメールアドレス	osamu.nakamura@nifty.ne.jp		
担当教員研究室	環境科学部4F 424号室		
担当教員TEL	095-829-2727		
担当教員オフィスアワー	月曜日3, 4限目		
授業のねらい	多様な地域の環境には、様々な可能性があります。過度な経済効率性の追求や、いわゆる都市部からの視点からではなく、地域がもつ固有性に注目した持続可能な地域社会のあり方について考えます。		
授業方法(学習指導法)	この講義では、自分の頭で考え、発言する。他の学生の意見を聞いて、それについて考え、反論する。受け入れる。という作業を求めます。一方的に聞くだけの講義ではなかなか身につかない「考える力」「議論する力」「受け入れる力」の獲得も目指します。		
授業到達目標	従来は、都市の発展を中心に経済、暮らしのあり方が考えられ建設されてきました。しかし、現在の環境問題、雇用の問題などから、地域から、生活から、人々の生き方からの視点での議論が求められています。そうした「視点」を循環型社会などの具体的事例をとおして獲得することを、この講義の目標とします。		
	回	内容	
	1	循環型社会を考える 1 福岡県大木町の循環の取り組みの紹介	
	2	循環型社会を考える 2 「循環」とは何かを様々な視点で考える 生態学的視点 山の上は、なぜ木が生長するのか リービッチの循環論	
	3	循環型社会を考える 3 「循環」とは何かを様々な視点で考える 生態学的視点と経済	

授業内容		人口ボーナスと人口オーナス	
	4	循環型社会を考える 4 地域の循環の取組 福岡県築上町、熊本県山鹿市 山形県長井市	
	5	循環型社会を考える 5 地域の循環の取組 失敗から学ぶ 京都府南丹市、大分県日田市	
	6	循環型社会を考える 6 タイの生ごみ資源化 アジアの人々の要望	
	7	地域に循環を作り出す 1 科学者と技術者に気をつけよう 1 水俣病と大学の研究者	
	8	地域に循環を作り出す 2 科学者と技術者に気をつけよう 2 労働者としての科学者	
	9	地域に循環を作り出す 3 地域の循環ビジネス、環境ビジネス 循環は経済がつくる	
	10	地域に循環を作り出す 4 地域の循環ビジネス、環境ビジネス 循環は経済がつくる	
	11	地域に循環を作り出す 5 地域の循環ビジネス、環境ビジネス 循環は経済がつくる	
	12	地域に循環を作り出す 6 地域の循環ビジネス、環境ビジネス 循環は経済がつくる 地域で循環する通貨について	
	13	地域に循環を作り出す 7 地域の循環ビジネス、環境ビジネス 循環は経済がつくる 地域で循環する通貨について	
	14	地域に循環を作り出す 8 地域の循環ビジネス、環境ビジネス 循環は経済がつくる ローカルな哲学を作る ローカルな哲学は、ローカルな循環経済がつくる	
	15	学生による報告	
	16	予備	
	キーワード	地域の視点、環境教育、循環型社会、エコツーリズム	
	教科書・教材・参考書	成功する生ごみ資源化（農文協）2011 中村修・遠藤はる奈  そのほか必要な資料は印刷して配布します	
成績評価の方法・基準等	レポート 70% 講義での報告・発言 30%		
受講要件（履修条件）			
本科目の位置づけ			
学習・教育目標			
備考（URL）			

備考（準備学習等）



-----  
Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育全学モジュールII科目-06 環境問題を考える**」シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20130587019301	科目番号	05870193
授業科目名	●環境問題を考えるII(海洋生物の遺伝子多様性)		
編集担当教員	和田 実		
授業担当教員名(科目責任者)	和田 実		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	和田 実,井上 徹志,山口 健一,菅 向志郎		
科目分類	全学モジュールII科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生(クラス等)	2年		
担当教員Eメールアドレス	miwada@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	海洋微生物生態学研究室		
担当教員TEL	095-819-2825		
担当教員オフィスアワー	適宜		
授業のねらい	海洋の原核および真核生物について、遺伝子レベルの多様性を学び、海洋生物の生態や生理活動、人との関わりについて知見を深める。海洋生命科学を推進するための基礎的な解析手法および原理について学び、海洋の生命現象を遺伝子レベルで理解するための基礎力を身につける。		
授業方法(学習指導法)	調べ学習を中心としたアクティブラーニング		
授業到達目標	分子生物学的な観点から海洋生物の多様性について説明できるようになる。		
授業内容	回	内容	
	1	海洋微生物の遺伝子多様性(1)	
	2	海洋微生物の遺伝子多様性(2)	
	3	海洋微生物の遺伝子多様性(3)	
	4	まとめ1	
	5	海洋微生物と人との関わり性の多様性(1)	
	6	海洋微生物と人との関わり性の多様性(2)	
	7	海洋微生物と人との関わり性の多様性(3)	
	8	まとめ2	
	9	海洋微生物の生理活性物質の多様性(1)	
	10	海洋微生物の生理活性物質の多様性(2)	
	11	海洋微生物の生理活性物質の多様性(3)	
	12	まとめ3	

	13	海洋生命科学を推進するための解析技法と原理（1）
	14	海洋生命科学を推進するための解析技法と原理（2）
	15	海洋生命科学を推進するための解析技法と原理（3）
	16	まとめ4
キーワード	海洋微生物, 遺伝子, 多様性	
教科書・教材・参考書		
成績評価の方法・基準等	10回以上の出席回数および授業への参加（取り組みの熱心さ, 能動的な態度, 質疑応答などに対する積極性）	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		

